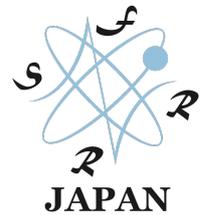


SFRR Japan NEWSLETTER

June 24, 2010



Top News!

第63回日本酸化ストレス学会学術集会

開催のご挨拶



会長 小澤 俊彦
(横浜薬科大学薬物解析学研究室 教授)

この度、横浜で第63回日本酸化ストレス学会学術集会を開催することとなり、担当会長として大変光栄に存じます。本学会が「日本酸化ストレス学会」と名称変更されて、第3回目の学術集会であります。本会を開催するにあたり、会員の皆様、ご協賛企業の皆様のご支援・ご協力に改めて感謝申し上げます。

生体内でのレドックス制御の破綻をはじめとした酸化ストレスの障害は、生活習慣病など種々の疾患成り・造悪因子と考えられており、基礎・臨床や創薬など多岐にわたる分野で広く研究されております。それぞれの研究領域は高度で細分化し、異領域間での交流が必ずしも活発でなく、新たな切り口が求められています。酸化ストレス疾患の克服は国民の健康に重要な課題となっております。酸化ストレス疾患に関係する研究者が、基礎から臨床まで一堂に会して最先端の研究成果を交換し、共同研究を推進することは、先端融合医療を展開するうえで極めて重要です。また、若手研究者が最先端の成果を持ち寄り、異分野交流を積極的に行うことは若手人材育成の面からも積極的な推進が求められています。

本学術集会では、「酸化ストレス学新時代」をテーマに、医学・歯学・薬学・農学・工学・理学など多分野の研究者が自由闊達に討論できる会を目指し準備してまいりました。そして、酸化ストレスに関わるシグナル伝達から、抗酸化物質、生体計測、臨床研究まで、3つのシンポジウムと2つのランチョンセミナー、1つのアフタヌーンセミナー、一般講演、ポスターセッションを企画いたしました。さらに、招待講演として、米国テキサス大学麻酔科教授Csaba Szebo先生から、「生体内ガス状物質 (NO, H₂Sなど)の役割」について、また、教育講演として、京都府立医科大学消化器内科学教授吉川敏一先生(日本酸化ストレス学会理事長)より「フリーラジカル研究と私」についてご講演を頂く予定です。また、学会賞、学術賞の受賞講演と、学術奨励賞の応募発表が行われます。本学術集会において、酸化ストレス疾患の克服に向けて基礎研究から臨床研究まで多方面の積極的な討論が行われますことを心から期待しております。

開催地の横浜は、昨年開港150周年を向かえたように異国情緒のある町であり、また世界屈指の中華街があることでも知られており、皆様が学術以外でも充分にお楽しみいただき、一層の親交が深まることを心より願っております。本学術集会にご参加の皆様へ改めて感謝申し上げます。



◇◇◇ 年次学術集会案内 ◇◇◇

SFRR JAPAN YOKOHAMA 2010 第63回日本酸化ストレス学会学術集会

日 時: 2010年6月25日(木)、26日(金)
会 場: 神奈川県民ホール(神奈川県横浜市)
会 長: 小澤俊彦(横浜薬科大学 教授)
事務局長: 李 昌一(神奈川歯科大学 教授)

第63回日本酸化ストレス学会学術集会のご案内を申し上げます。

本学術集会では、小澤俊彦会長の提言である「酸化ストレス学新時代」をテーマに、医学・歯学・薬学・農学・工学・理学など多分野の研究者が自由闊達に討論できる会を目指しております。本会では、招待講演として米国テキサス大学麻酔科教授Csaba Szebo先生に「生体内ガス状物質 (NO, H₂Sなど)の役割」についてご講演いただく予定です。また、教育講演として、京都府立医科大学消化器内科学教授・吉川敏一先生(日本酸化ストレス学会理事長)に「フリーラジカル研究と私」と題し、酸化ストレス研究(学会)の歴史についてご講演頂く予定です。学会受賞講演として、東北大学未来科学技術共同研究センター教授・河野雅弘先生に「電子スピン共鳴法による活性酸素・活性窒素の計測法の確立とその応用」を、学術受賞講演として、名古屋大学大学院医学系研究科病理病態学講座生体反応病理学/分子病理診断学教授・豊國伸哉先生に「過剰鉄による発がん機構の解明」を御講演頂きます。また、今回は以下の3つのシンポジウムを企画いたしました。シンポジウム1として「放射線と活性酸素」(オーガナイザー: 馬嶋秀行先生、稲波修生先生)、シンポジウム2として「酸化ストレスによる疾患メカニズム解析の新しい展開」(オーガナイザー: 今井浩孝先生、鈴木秀和先生)、そして、シンポジウム3として「抗酸化食品因子の新規な機能探索とその応用」(オーガナイザー: 寺尾純二先生、李昌一先生)を予定しております。基礎から臨床、そして食品へと幅広い視野でのシンポジウムを企画いたしました。さらに例年通り奨励賞候補講演(7演題)を、また一般講演として47演題、ポスター発表として97演題を予定しています。このポスター発表には、昨年、一昨年に引き続きポスター賞を設けております。また、共催によりランチョンセミナー2つとアフタヌーンティーセミナー1つも行われます。

本学会では、基礎研究から臨床研究まで、さらに分子レベルから個体レベルまで、酸化ストレス疾患の解明に関わる様々な演題が多数ございます。本学会を通じ、これら先生方の研究成果により酸化ストレス疾患の克服に向けて、多方面からの積極的な御討論を頂きましたら事務局として幸甚に存じます。

(第63回日本酸化ストレス学会学術集会

事務局 李 昌一
高橋聡子
前畑洋次郎)



◆◆◆ 委員会便り ◆◆◆

*** 学術奨励賞選考委員会 ***

学術奨励賞は日本酸化ストレス学会の最も重要な賞の一つであり、優秀な若手研究者の奨励と表彰を目的としています。受賞希望者は、毎年演題申込時に申請する必要があります。6名の選考委員は申請書類を事前審査し、受賞候補者を決定します。さらに年次学術集会での講演内容を吟味し、選考委員会での白熱した議論を経て、受賞者を決定します。受賞者は懇親会で発表され、理事長から記念品とともに表彰されます。

以下のような選考基準で選考を進めています。発表内容が新規で、酸化ストレス分野の研究進展に有意義であること。過去の研究の歴史を分かりやすくまとめ、解決しようとしている問題を明確にし、そのための方法論の確実性を提示していること。得られたデータを論理的にまとめ、説得力のある結論を導いていること。批判や質問に対し簡潔に誠意を持って答えていること。

因みに、昨年度の受賞者は、井手友美先生（九州大学循環器内科）、津川 仁先生（慶應義塾大学医学部・内科学（消化器）上部消化管疾患研究室）のお二人でした。これからも、素晴らしい研究者が育っていかれることを願っています。



(2008-2009年度 委員長 山本順寛 東京工科大学応用生物学部)

【学術奨励賞の公募について】

本賞は毎年開催される日本酸化ストレス学会学術集会における学術講演発表者を対象として、選考委員会にて決定されます。

応募資格:

- 1 酸化ストレス研究の進歩に寄与する顕著な研究を発表し、将来発展の期待される研究者に対し授与する。ただし、研究業績はその主要な部分が日本国内で行なわれたものに限る。
- 2 当該年の4月1日において40歳以下で会員歴3年を有するものとする。ただし、女性にあっては前項の年齢制限を45歳以下とする。

毎年候補者の募集を年次学術集会演題募集要項に公告いたしますので、ご参照下さい。抄録ならびに略歴および業績リストによる第1次選考を経て、学術集会当日の奨励賞候補セッションにおいて口頭発表を行っていただきます。是非多くのご応募をお待ちいたしております。

～ 2009年度 各賞受賞者 喜びの声 ～



「2009年度 学会賞 を受賞して」

野野 雅弘
東北大学未来科学技術共同研究センター

この度は、「電子スピン共鳴法による活性酸素・活性窒素の計測法の確立とその応用」との課題で、歴史ある酸化ストレス学会の学会賞を受賞することができ光栄に存じます。学会賞の推薦を頂きました小澤俊彦先生始め、関係者の皆様から心からお礼申し上げます。この受賞は、医学に關係する生体計測に導いてくださいました森昭胤先生をはじめとする岡山大学の皆様のお陰です。

遡れば、私の電子スピン共鳴装置による研究は、1979年、Linus Pauling先生と福岡大学の木本英治の共同研究に加えていただき、活性ビタミンCの関与する血液中のトランスフェリン鉄とセルロプラスミン銅の酸化還元平衡を測定したのが始まりでした。このことがきっかけで、1980年には、Linus Pauling先生をお招きし、本学会の前身である「第1回臨床医のための磁気共鳴研究会」が京都で開催されたと記憶しています。しかし、活性ビタミンCを計測はESR装置の感度不足によって失敗しました。その後、高純度スピントラップ剤(DMPO)が開発され、ESR—スピントラッピング法が飛躍的な発展を遂げ、活性酸素や活性窒素の計測方法が考案されました。

今日では、活性酸素・活性窒素・フリーラジカルの計測が医学、薬学、農学、生化学、食品科学、水産などの生命科学分野に普及しています。ESR計測法は未だに発展途上である分光学です。量子理論を基盤として今後も発展が期待されます。

微力ですが、今後の新たな応用計測法を考案し、酸化ストレス学会の発展に寄与したいと願っています。

◆◆◆ 奨励賞公募について ◆◆◆

「2009年 学術賞を受賞して」



豊國 伸哉
名古屋大学大学院医学系研究科
病理病態学講座生体反応病理学・分子病理診断学

このたびは栄えある日本酸化ストレス学会の学術賞をいただき、たいへんありがとうございました。「酸化ストレス」は、現在、化学・工学・農学・医学といった諸領域において、メカニズム解明になくてならない分野にまで発展しました。この分野を開拓された諸先輩方の業績に敬意を表するとともに、私をこの分野に導いてくださった恩師の岡田 茂先生に深く感謝したいと思ひます。みなさんは、日頃、少しでもimpact factor (IF)の高い雑誌に論文を受理してもらおうと努力しておられると思いますが、この機会をお借りして、評価指標として注目されているh-indexを紹介したいと思ひます。私は、そもそもIFのみで研究者を評価するのは誤っていると思ひます。いかにIFが高くても、他の研究者から引用されない論文は意味がありません。IFはその雑誌の評価であり、高いIFの雑誌に掲載された論文は、その論文が目立つところに陳列されたということを意味します。h-indexは研究者の論文の引用頻度の総括的評価であり、20回引用された論文が20本以上あれば20です(Hirsch J.E. P Natl Acad Sci USA 102: 16569, 2005)。当該研究者の将来性を予測するのに有用であるとされており、ノーベル賞級の研究者では100を超えるという話があります。自分のh-indexはWeb of ScienceやResearcher IDで調べることができます。繰り返して引用される論文を出版したいものです。多数の共同研究者の先生方に改めて感謝すると共に、新しい学生や若い研究者が参入することにより、この分野の研究がますます盛んになることを祈念して、結びとさせていただきます。

「2009年学術奨励賞 を受賞して」



井手 友美
九州大学循環器内科

日本酸化ストレス学会には、その前身である日本過酸化脂質・フリーラジカル学会に所属していた時より、多くの先生方に様々な形でお世話になってきました。奇しくも、本大会長である内海英雄先生は、私が研究生時代に酸化ストレス研究を始めた時からご指導いただいております。今回、研究奨励賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に思うと同時に、本受賞に恥じないようもっと頑張らないと、叱咤激励されているように感じております。私の専門としている循環器分野でも、酸化ストレス研究の位置づけは、この12年で大きく変貌いたしました。私が研究を始めた当時は、循環器関連学会のキーワードにすら登場していなかったものが、今では酸化ストレスはあらゆる心疾患の病態に関わっていることが多くの研究で示されています。また今後、さらに酸化ストレス研究を加速させ、その研究成果を臨床に還元できるよう、謙虚な気持ちで、私なりの世界を形作ることができるよう精進したいと思っております。末筆ではありますが、本学会ならびに理事・評議員そして会員の先生方へますますのご発展を祈念いたしております。今後とも引き続きご指導のほどお願いいたします。



津川 仁
慶應義塾大学医学部内科学

今回の様な大変名誉ある賞を賜り望外の光栄であり、日本酸化ストレス学会理事長 吉川敏一先生並びに第62回学術集会会長 内海英雄先生をはじめ、関係の先生方に衷心より御礼申し上げます。今後この表彰を励みに、酸化ストレス学分野の発展に貢献出来るよう研鑽を重ねていきたいと思っております。また、ご指導を賜っている慶應義塾大学医学部・内科学(消化器)専任講師 鈴木秀和先生にこの場を借りて感謝申し上げます。

◇◇◇ 関連学会 開催案内 ◇◇◇

以下の関連学会情報は予定を多く含みます。変更などが生じる可能性もありますので、詳細については、各主催団体にお問い合わせ下さい。また、学会HPにても随時情報を掲載予定です。

吉川敏一先生記念国際シンポジウム
International Symposium on Free Radical Research:
Contribution to Medicine

フリーラジカルと医学に関する国際会議

日時: 2011年1月20日(木) - 22日(土)
会場: 京都ハイアットリージェンシーホテル
<http://kyoto.regency.hyatt.jp/hyatt/hotels/index.jsp>
会長: 二木鋭雄(産総研・京都府立医大)
副会長: Matthew Grisham
(LSU Health Sciences Center)
事務局長: 内藤裕二(京都府立医大)
ホームページ: <http://frcm2011.umin.jp/>



「開催のご案内」
会長: 二木 鋭雄 (産総研・京都府立医大)

わが国のフリーラジカルおよび酸化ストレスの科学と医学のまとめ役である吉川敏一先生の本学際領域における長年の功績を記念して、国際シンポジウムを上記の要領で開催します。フリーラジカルと医学に関しては、近年大きなパラダイムシフトが見られますが、この記念すべきシンポジウムに多くの国際的に著名な研究者が集まります。最先端の研究を進めている研究者の講演を聞くとともに、皆さまの研究成果を発表し、討論するまたとない機会です。ぜひご参加くださいませよう、ご案内いたします。なお会場の都合上、定員に限りがありますので先着順の申し込みとさせていただきます。

演題募集・参加登録 開始予定:

2010年7月1日(木)

※会場の都合上、参加人数(登録・懇親会)に限りがあります。先着順となりますので、早めのお手続きをお奨めいたします。

※演題応募・参加登録は、オンラインを予定しております。上記HPより詳細をご確認下さい。

問い合わせ先:

事務局: UENO CONGRESS SERVICE
e-mail: TOSHI-office@uenocongress.jp
電話: 075-213-7057; FAX: 075-213-7058

第27回臨床フリーラジカル会議

テーマ: 「抗酸化剤、抗酸化機構の新たな展開」
会期: 2010年12月3日(金)p.m. ~ 4日(土)a.m.
会場: 烟河(けぶりかわ) 会議室 (京都府亀岡市)
〒621-0251 京都府亀岡市本梅町平松1-1
TEL 0771-26-2345
<http://www.keburikawa.com>
当番世話人: 吉川 敏一
(京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学)
問い合わせ先: 臨床フリーラジカル会議 事務局
京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学内
e-mail: ynaito@koto.kpu-m.ac.jp

宿泊を伴う研究会を予定しております。若手講演者セッションも設ける予定ですので、是非多数ご参加下さい。

第64回日本酸化ストレス学会学術集会

- 日時: 2011(平成23)年6月9日(木) ~ 10日(金)
- 会場: 戦災復興記念館
〒980-0804 仙台市青葉区大町二丁目12-1
(<http://www.city.sendai.jp/aoba/sensai/index.html>)
懇親会: アークホテル(仮)
〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町2-2-10
(<http://sendai.ark-hotel.co.jp/index.html>)
- 会長: 河野雅弘(東北大学教授)

来年の日本酸化ストレス学会学術集会は東北・仙台での開催を予定しております。現在準備中ではございますが、具体的な日時と場所が決まりましたのでお知らせいたします。会場は仙台市都心部西部の広瀬通りと晩翠通りとの交差点近くの肴町通り沿いにある、コンサートホール・会議室等を備えた仙台市の戦災復興資料館です。杜の都仙台を象徴する並木も徒歩圏内ですので、是非お出かけ下さい。会員の皆様の積極的な参加をお待ち申し上げております。(第64回学術集会会長 河野 雅弘)

連絡先: 東北大学 未来科学技術共同研究センター
河野 雅弘
(kohno@niche.tohoku.ac.jp)
事務局: 東北大学 未来科学技術共同研究センター
永野 彩
(nagano@niche.tohoku.ac.jp)



5th Biennial Meeting of SFRR Asia (5th SFRR Asia)

日時: 2011年8/31(水)から9/4(日) (5日間予定)
会場: 鹿児島県鹿児島市内(鹿児島市民文化ホール)(予定)
会長: 馬嶋秀行(鹿児島大学大学院医学総合研究科腫瘍学講座・宇宙環境医学講座教授)
〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
TEL 099-275-6270, 6272 FAX 099-275-6278
準備委員長: 犬童寛子
※8thアジアミトコンドリア学会(ASMRM)2011と11th日本ミトコンドリア学会(J-mit)のJointで開催予定です。

2010XV SFRR-International Biennial Meeting and SFRBM's 17th Annual Meeting

Date: November 17 (Wed.) to 21(Sun.), 2010
Venue: Caribe Royale Hotel & Conference Center, Orlando, Florida USA



REGISTRATION FEES
Senior Investigator - SFRBM or SFRR Member \$535 USD
Senior Investigator - Non Member \$685 USD
Student/Postdoc - SFRBM or SFRR Member \$275 USD
Student/Postdoc - Non Member \$350 USD

日本酸化ストレス学会は、SFRR Internationalの下部組織ですので、会員の方は、会員価格で登録が出来ます。是非多くのご参加をお願いいたします。ポスター発表者の中から若手奨励賞の授与も予定しております是非多くの演題をご応募下さい。

詳細は、下記HPをご参照下さい。
<http://www.sfrbm.org/annualMeetinas.php>



